

Veeam Backup & ReplicationでVMwareからAWS S3にバックアップする際の通信要件（ポート番号）

Veeam Backup & Replicationを利用して、VMware仮想マシンのバックアップデータをAWS S3へ転送する場合、主に以下の通信ポートが必要です。

AWS S3への通信に必要なポート

送信元	宛先	プロトコル	ポート番号	用途・備考
Veeamコンポーネント (例： ゲートウェイサーバー)	AWS S3サービスエンドポイント	TCP	443	S3オブジェクトストレージとの通信に使用 (HTTPS) [1]
Veeamコンポーネント	AWS証明書確認用エンドポイント	TCP	80	証明書失効リストやOCSPサーバー等への通信 (証明書検証) [1]

Veeamバックアップインフラ内の通信に必要なポート

バックアッププロキシやリポジトリ、ゲートウェイサーバーなど、Veeamの各種コンポーネント間でも通信が必要です。

送信元	宛先	プロトコル	ポート番号	用途・備考
バックアッププロキシ等	ゲートウェイサーバー等	TCP	2500～ 3300	データ転送チャネルとして利用。 各ジョブごとに1つ割り当て [1]
バックアップサーバー	ゲートウェイサーバー等	TCP	6160, 6162, 6166	Veeam Installer/Data Mover/コントロール用 [1]
バックアップサーバー	ゲートウェイサーバー等	TCP	49152～ 65535	Windowsの動的RPCポート範囲 (アプリケーションアウェア処理等で必要な場合) [1]

AWS S3エンドポイントへの接続方法

- **AWS S3への通信はインターネット経由 (HTTPS/443) **で行われます。
- AWS Direct ConnectやVPN経由でも、最終的にはS3のパブリックエンドポイント (TCP/443) への通信が必要です [\[2\]](#)。

まとめ

- **AWS S3へのバックアップ通信に必須のポートはTCP/443 (HTTPS)**
- 証明書検証のためにTCP/80も必要
- Veeamインフラ内のデータ転送や管理用にTCP/2500～3300、6160、6162、6166、49152～65535 (Windows動的RPC) などが必要

参考

- AWS S3通信には**TCP/443** (HTTPS) が必須^[1] [2]
- Veeamインフラ内の通信には**TCP/2500~3300**等が必要^[1]
- 詳細な構成や環境により追加のポートが必要となる場合があります。Veeam公式ドキュメントの「使用ポート」セクションも参照してください^[1] [3]

※

1. https://helpcenter.veeam.com/docs/backup/vsphere/used_ports.html
2. <https://aws.amazon.com/blogs/storage/best-practices-for-connecting-your-veeam-on-premises-environment-to-amazon-s3/>
3. https://helpcenter.veeam.com/jp/docs/backup/agents/used_ports.html